

# 積丹町地域密着型特別養護老人ホーム

## ゆうるり

「郷土が誇る」特養“をめぐりて”



待ち望んだ地域密着型特別養護老人ホーム「ゆうるり」が平成28年4月にオープンしてからちょうど1年を迎えました。

この1年、家族や地域住民代表も参画した施設運営推進会議や様々な取組など地域に開かれた施設運営をめざしている同施設の近況を紹介します。



### 満床29名の方々が生活

町の高齢化率が44%を超え、「高齢になっても住み慣れた町で暮らしたい！」そんな町民の強い願いを受け、社会福祉法人よいち福祉会（亀尾毅理事長）は昨年町内に、重度の介護を必要とする要介護者が、少ない費用負担で長期入所できる施設『特養ゆうるり』を開設しました。

現在ゆうるりには、町内だけでなく、古平町や仁木町など町

外の方々も毎日の生活を送っています。初めは施設職員が足りないため、入居できない高齢者の方々がたくさんいました。しかし現在は、職員数も増え、3月7日、入居者が定員の29人満床となりました。

ゆうるりでは、入居者に楽しんでもらおうと毎月の誕生日会の開催や季節ごとの行事を行っています。夏は、入居者全員で神威岬へのドライブや美国神社祭、秋には、入居者の家族や町内の方々にも楽しんでもらう「ゆうるり秋祭り」を催し、美国中学校吹奏楽部の演奏や地域の食材を使った模擬店などを出店しました。

本荘頼賢施設長は「入居者に楽しんで、生き生きと生活をしてもらうことを第一に考え、様々な企画に力を入れてきた1

年でした。」と振り返っていました。

### 広がる町民ボランティアの輪

町民の方々による生け花教室や俳句教室などのボランティア活動も行われています。

よいち福祉会「フルーツシャトーよいち」の「生け花クラブ」に参加している利用者が楽しく生け花をしている様子を見て、ゆう

るりでも入居者に対し、「生け花教室」が出来ないかと考え、町内で生け花を教えている、戸来和子さん（美国町）が中心となり、月に2回、入居者に生け花を教え一緒に楽しんでいきます。

俳句教室は、美国踏青俳句会会長の成田智世子さん（美国町）が中心となり、月に1回、「ゆうるり俳句会」として入居者の俳句づくりを応援しています。

成田さんは、「少しの時間でも、自分たちで俳句を考え、喜んでる姿や、俳句を始めてか



▲職員から野菜の切り方を教わる入居者

ら、入居者の会話が増え、生き生きしていると言われ、すごくうれしいです。」と話し、本荘施設長も、「俳句や生け花が好きな方も多いので入居者の楽しみが増え感謝しています。」と話していました。

今では、入居者のために行われているこれらのボランティア教室が、入居者を元気づけるだけではなく、生活の一部として欠かせないものとなつています。

## ”光“を失った自身の 「体験談」で励まして あげたい!

3月15日には、ゆうりり俳句会が主催する、『相川美津子さんの体験談「生かされて」』が、ゆうりりの「いこいのスペース」で開かれ、入居者や町民、約40人が訪れました。

同会の会員でもあり、元町立診療所看護師の相川美津子さん(美国町)をボランティア講師に、自身が病に倒れ、その後遺症から全盲になってしまい不安と辛さを感じながらも、人の温

かさを常に感じ、前向きに強く生きていくことの大切さを語られました。

相川さんは、「介護は、相手に会って語りかける『会語(か いご)』という言葉を使っています。夫の母の仏前には毎日欠かさず会語をしています。」と話し、また、「普段当たり前の

ように行っていた家事も出来なくなり悔しい思いもしました。が、ヘルパーさんが米のとき方などを丁寧に教えてくれて、今では炊事が楽しく毎日の日課となっています。」と、たとえ目

みない拍手が送られています。

この講演を企画した、成田智世子さんは「相川さんの体験を入居者に知ってもらい、元気づけたいと思って企画しました。」と話し、入居者はもちろん、訪れた町民の方々も勇気づけられた講演会でした。

## 地域に開かれた施設 運営をめざして

ゆうりりでは今後、「生け花教室」や「俳句教室」のほかに、入居者に趣味や特技を聞き、町民と共に新たな活動に取り組んでいく予定です。29年度は、町で実施している「健康推進事業」やB&G海洋センターなどと連携し、入居者の健康を考え、軽い運動などを行うことになりました。

また、「入居者がこの施設に入って良かったと心から思えるように、熱い志と高い介護技術をしつかりと身につけた職員が、入居者一人ひとりに合った介護をめざすことが私たち職員の仕事です。」と本荘施設長が話されていました。

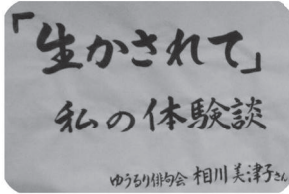
昨年12月に入居した町内出身の入居者は、「家では、ご飯を食べるのも寝るのもすべて一人だった。入居してからは、みんなと会話してご飯を食べる、本当に楽しい。入ってすぐに誕生日会もしてもらい嬉しかった。」と話していました。この入居者は、施設に入る前は漁師だったそうで、職員や入居者たちに、現役の頃のことを生き生きと話しているそうです。

4月から2年目を迎える「ゆうりり」。昨年9月から、併設の公衆浴場「いこい」もオープンし、町民の交流の場として賑わっています。今年オープンする憩いの広場公園がゆうりりの“庭園”となり、公園用トイレも併設されているため、一層入居者と町民が近く感じられるようになっています。

本荘施設長は「多くの子どもたちや町民が気軽にゆうりりに足を運び、「いこいのスペース」を利用してくださるような場にしていきたいと思っています。町



▲入居者みんなでストレッチ



▶自身の体験を語る  
相川美津子さん

が見えなくても、普段の生活から感じる楽しさを語っていました。最後に、「目が見えなくなつてからは、日常の挨拶の大切さや、いつでも優しくしてくれる人たちの温かさをより感じるようになりました。町民から声を掛けられることが生きがいになつていたので、見かけたときはぜひ声を掛けてください。」と話し、訪れた方々からは、涙を流しながら惜し

民の皆さんもたくさん利用してください。それを入居者が見て元気に生活してくれると嬉しい限りです。」と話しています。 “ 積丹の特養にぜひ入りたい。そんな施設をめざして、地域や町民と共に作り上げていく特別養護老人ホームづくりにも、今日も施設職員の皆さんが頑張っています。 町をあげて誘致建設した念願の、ゆうりり。これからみんなので応援していきましょう。